
プラネタリウム

春日 華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プラネタリウム

【Nコード】

N0818G

【作者名】

春日 華

【あらすじ】

プラネタリウムに通い続ける一途な思い。

月に一度は必ず行く場所があります。

私の住んでいる京橋から京都の伏見区にあるプラネタリウムに通うのに私は必ず京阪電車の普通か準急を利用します。

準急でも萱島からは各駅停車になり京橋からだとは時間はかかりますが、景色を見ながら、あなたの事を考えながらプラネタリウムまで行くのは私の楽しみの中の一つなのです。

大阪にもプラネタリウムが見れる場所があります。

ただ私がこの京都のプラネタリウムへ通うのには理由があるのです。今、どこかでこの文章を読んでいるかもしれないあなたなら気づきでしょう。

このプラネタリウムはあなたとの思い出の場所だからです。

私が一人でここに通いだしてからもうだいぶ長い時間が流れました。

さほど興味も無かった星の名前もたくさん覚ええました。

星座にまつわる雑学もプラネタリウムに行く度に増え続けています。

あなたに会えなくなつて五年は流れているので、今は私の方が星に詳しくなつたかしら？

いえ、星の好きなあなたの事だから別のプラネタリウム館で星を眺めているのでしょうかね。

あなたが最後に言った

「ゴメンね。またね。」という言葉…あなたにとっては何だの別れ

の言葉だった事は、こんなに長い歳月がたてば私も気付いています。

ただ私があなただを忘れられないだけなんです。

あなたの笑顔も、繊細なところも、細い指で髪をさわる仕草も…五年という月日が流れていても、あなたの匂いや体温でさえ昨日の事のように思い出せます。

あなたと会えなくなった日から週に一度は京都に通っています。

あなたと歩いた哲学の道。

2人で買い物した四条。

あなたと行った場所を歩くとあなたにまた会えそうな気がしてしょうがないのです。

この淡い期待は京都に来る度に裏切られています、私は京都に通う事をやめられません。

あなたがセミロングが好きだと言ったから髪型でさえ、私は伸ばすこともせず同じ長さを保ち続けているのです。

私が夢を追う事をやめて、あなたと結婚していれば今でも私のそばにいてくれましたか？

私があなたとの子供を授かっていれば今、私はあなたと幸せな家庭が築けていたのでしょうか？

文章を書く仕事につきたいという願いが叶った今私にとっての夢は文章で食べていく事では無くあなたと生きていく事だったのでは無いかとすら思えてきます。

ただあの時の私は怖かったのです。

あなただけしかないの人生になってしまう事を恐れていました。生まれてきたからには自分も何かを成し遂げられるような人生を送れるはずだという根拠も何も無い若さゆえ溢れ出る自信と、あなた

といつか訪れる別れを勝手に想像して、そのダメージを少しでも打ち込める物を見つける事で半減させようという浅はかな考えが私の人生が狂いはじめたきっかけだったように思います。

あなたの海外転勤が決まって「二年で日本には帰ってくるから、転勤の前に結婚してほしい。一緒に向こうへ行こう」そう言ってくれた時、本当はすごく嬉しかったのを今でも覚えています。

二年後に返事を出すから日本で待っています。

臆病な私には、それが精一杯の答えだった。

あなたについていく事の出来なかった自分の結末。

それは映画のひまわりのような悲しい結末になっているような気がして、京都には言っても付き合っていた時に聞いたあなたの実家には怖くて行けていません。

きつと私は永遠にあなたを忘れる事はできないでしょう。

だって私はあなた以外の男性も、あなたを忘れる事も望んではないのですから・・・

きつと私はこのプラネタリウムがあり続ける限り、あなたの面影を探して何年も通い続けるのです。

あなたは永遠の愛や運命を信じますか？

あなたが五年前私に誓った愛の言葉は本心のものでしたか？

私はこれから先のあなたの人生を独占したいなんておこがましい事は望みません。

臆病だった自分の愚かさ故にあなたを失ってしまう私が望む事は、あなたの気持ちの本心だったかどうかだけです。

それが本心だとしたら、そのあなたとの幸せな思い出だけで一生を過ごしていきます。

思い出の品なんて何一つ無いけれどプラネタリウムが映し出す星空
と思い出だけは変わらずに残っています。

いつか…あなたが最後に言った言葉のようにまた会う時が訪れたならば今でもそしてこれからも私の中で蓄積されていく星空の神話や雑学を聞いて下さい。

あの日のように愛を語ってほしいなんて望まないの、また私の隣で笑って下さい。

あなたが、もし疲れて昔を思い出したくなった時は、あの時と同じ気持ちでいつものプラネタリウムのいつもの席で待っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0818g/>

プラネタリウム

2011年1月25日06時42分発行